

令和4年度中野区体力にかかわる調査の結果と体力向上に向けた取組について

1 中野区体力にかかわる調査（以下、体力テストと称する）について

(1) 趣旨

- 中野区立小・中学校において、体力テストの結果から個人及び集団の体力水準や傾向を把握することで、児童・生徒の実態に合った体力向上プログラム（※参考資料参照）の策定・実施を行う。
- 体力テストの結果を基に、児童・生徒が自分自身の体力の現状や課題を把握し、自分にあった運動や運動遊びを楽しみながら継続して行えるよう実践力を育てる。
- 児童・生徒の体力の現状及び体力向上プログラムの成果と課題を明らかにし、教育委員会の施策及び事業に生かす。
- 新型コロナウイルス感染症が体力に与えた影響について検証し、新しい生活様式での体力向上の在り方を検討する。

(2) 調査の実施概要

①対象学年

中野区立小・中学校に在籍する全児童・生徒

②調査事項

ア 体力・運動能力に関する調査（小学校8種目、中学校8～9種目）

【小・中学校共通種目】

- | | |
|-------------------|-----------------------|
| ・握力（筋力） | ・上体起こし（筋力・筋持久力） |
| ・長座体前屈（柔軟性） | ・反復横跳び（敏捷性） |
| ・20mシャトルラン（全身持久力） | ・50m走（スピード） |
| ・立ち幅跳び（筋パワー<瞬発力>） | ・ボール投げ（巧緻性・筋パワー<瞬発力>） |

【中学校種目】

- ・20mシャトルランに替えて、持久走〔男子1500m、女子1000m〕（全身持久力）を実施、又は、両種目実施することができる。

イ 生活・運動習慣等の実態に関する調査（質問紙調査）

③実施時期

令和4年6月1日（水）から6月30日（木）まで

(3) 調査結果の分析・活用について

- 各小・中学校は、児童・生徒の体力水準や傾向を把握し、体力向上プログラムの改善に役立てる。
- 教育委員会事務局では、調査結果を基に体力向上のための施策に生かす。

2 体力・運動能力に関する調査の結果

(1) 中野スタンダード（※参考資料参照）との比較

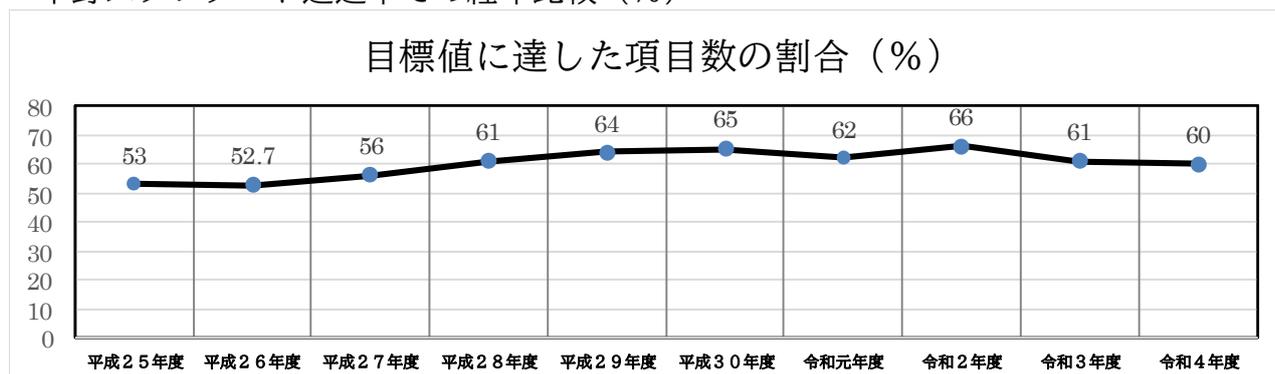
ア 中野スタンダード通過率の前年比

■令和3・4年度（○が中野スタンダードに達した児童・生徒の割合が70%を超えた項目）

		男子								女子									
		握力	上体起こし	長座体前屈	反復横とび	20mシャトルラン	50m走	立ち幅とび	ソフトボール投げ										
小学生	1年	R4	▼	▼	○	○	▼	○	○	▼	▼	▼	▼	○	▼	○	○	▼	
		R3	▼	▼	▼	○	○	○	○	▼	▼	▼	▼	○	▼	○	○	▼	
	2年	R4	▼	○	▼	○	▼	○	○	▼	▼	○	▼	○	▼	○	○	▼	
		R3	▼	○	○	○	○	○	▼	▼	▼	▼	○	○	○	○	○	▼	
	3年	R4	▼	▼	○	○	▼	○	▼	▼	▼	○	○	○	▼	○	○	▼	
		R3	▼	▼	○	○	▼	○	▼	▼	▼	○	○	○	▼	○	▼	▼	
	4年	R4	▼	○	○	○	▼	○	▼	▼	▼	○	○	○	▼	○	▼	▼	
		R3	▼	○	○	○	○	○	▼	▼	▼	○	○	○	○	○	○	▼	
	5年	R4	▼	○	○	○	▼	○	○	▼	▼	○	○	○	○	○	○	▼	
		R3	▼	○	○	○	▼	○	▼	▼	▼	○	○	○	○	○	○	▼	
	6年	R4	▼	○	○	○	▼	○	○	▼	▼	○	○	○	○	○	○	▼	
		R3	▼	○	○	○	▼	○	○	▼	▼	○	○	○	○	○	○	▼	
中学生	1年	R4	▼	○	○	○	○	○	▼	○	○	○	○	○	○	○	○	▼	○
		R3	▼	○	▼	○	▼	○	○	▼	○	○	○	○	○	○	▼	○	○
	2年	R4	▼	▼	▼	○	▼	○	○	▼	○	▼	○	○	○	○	○	▼	○
		R3	▼	○	○	○	▼	○	○	▼	○	▼	○	○	○	○	○	▼	○
	3年	R4	▼	○	○	○	▼	○	○	▼	○	▼	○	○	○	○	○	▼	○
		R3	▼	○	○	○	○	○	○	▼	○	▼	○	○	○	○	○	▼	○

※150項目中 通過率が目標値に達した項目数 令和3年度92項目（61%） 令和4年度90項目（60%）

イ 中野スタンダード通過率での経年比較（%）



※グラフの数値は、150項目中 通過率が目標値に達した項目数の割合（%）を示している。

(2) 都平均との比較

ア 過去8年間の推移

東京都平均と比較して中野区平均が ○1%を超えて都平均を上回ったもの
 ▼1%を超えて都平均を下回ったもの ≡都平均との差が1%以下のもの

	○(1%を超えて上回ったもの)	≡(差が1%以下のもの)	▼(1%を超えて下回ったもの)	合 計
平成27年度	44項目(29%)	50項目(33%)	56項目(37%)	150
平成28年度	45項目(30%)	77項目(51%)	28項目(19%)	150
平成29年度	51項目(34%)	70項目(47%)	29項目(19%)	150
平成30年度	44項目(29%)	59項目(39%)	47項目(32%)	150
令和元年度	41項目(27%)	42項目(28%)	67項目(45%)	150
令和2年度	68項目(46%)	41項目(27%)	41項目(27%)	150
令和3年度	64項目(43%)	55項目(37%)	31項目(20%)	150
令和4年度	68項目(46%)	53項目(35%)	29項目(19%)	150

イ 各項目の前年比

■令和3・4年度

東京都平均と比較して中野区平均が ○1%を超えて都平均を上回ったもの
 ▼1%を超えて都平均を下回ったもの ≡都平均との差が1%以下のもの

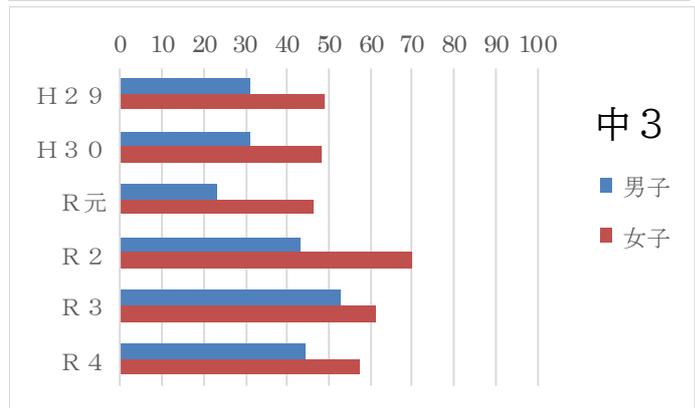
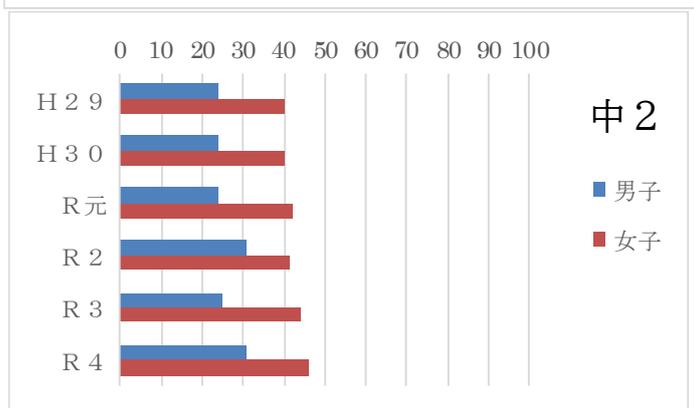
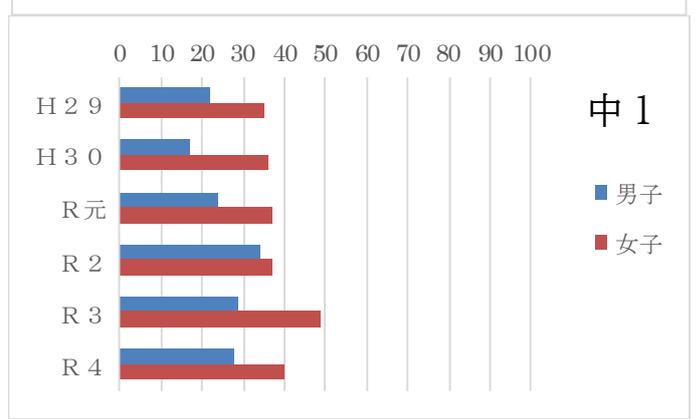
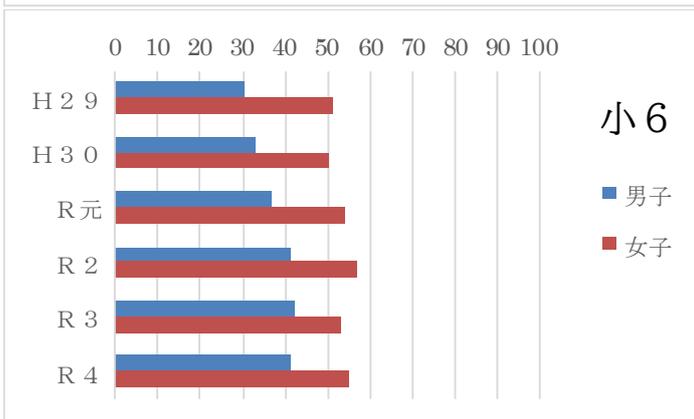
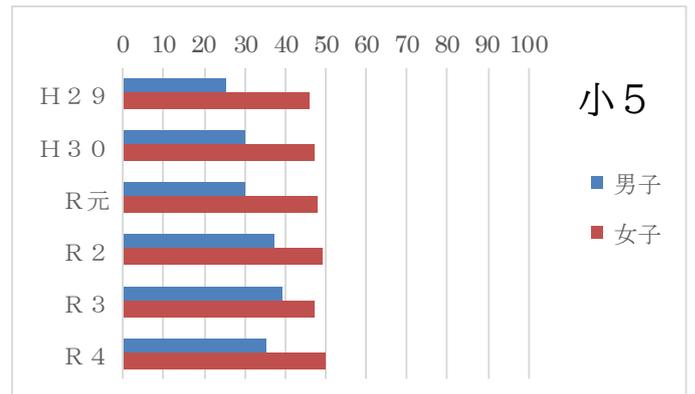
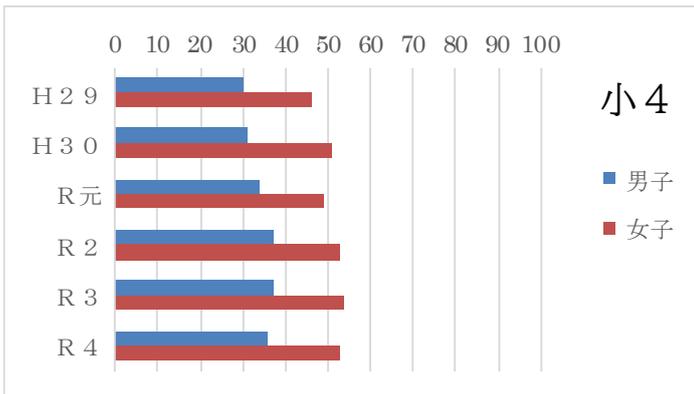
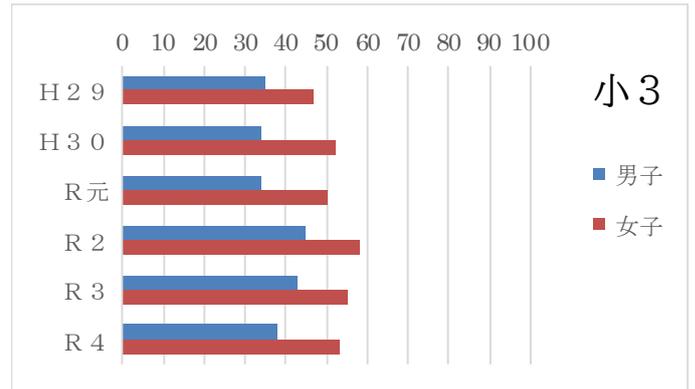
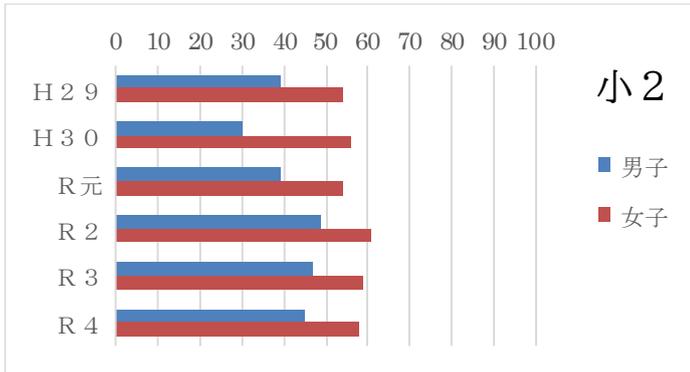
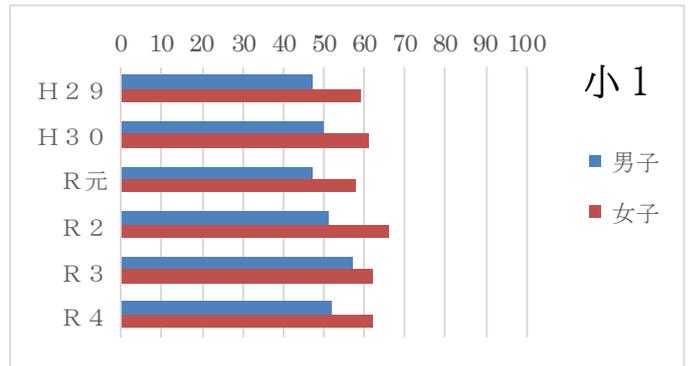
		男子									女子															
		握力	上体起こし	長座体前屈	反復横とび	20mシャトルラン	50m走	立ち幅とび	ソフトボール投げ	ソフトボール投げ	持久走	握力	上体起こし	長座体前屈	反復横とび	20mシャトルラン	50m走	立ち幅とび	ソフトボール投げ	ソフトボール投げ	持久走					
小学生	1年	R4	▼	○	○	○	▼	≡	≡	≡	▼	○	≡	≡	▼	≡	≡	▼	○	≡	≡	▼	○	≡	≡	
		R3	▼	▼	▼	▼	○	≡	≡	≡	▼	○	≡	≡	○	≡	≡	○	○	≡	≡	○	○	≡	≡	
	2年	R4	▼	○	≡	○	○	≡	○	○	▼	○	○	○	▼	≡	≡	○	○	○	○	▼	○	○	○	○
		R3	▼	○	○	≡	○	▼	≡	▼	○	○	○	○	○	≡	≡	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	3年	R4	▼	○	○	○	▼	○	▼	▼	○	○	○	○	▼	≡	≡	○	○	○	○	○	○	○	○	○
		R3	▼	○	○	▼	▼	≡	≡	○	○	○	○	○	▼	≡	≡	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	4年	R4	▼	○	○	≡	▼	○	≡	▼	○	○	○	○	▼	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
		R3	≡	○	○	≡	○	≡	○	○	○	○	○	○	▼	≡	≡	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	5年	R4	≡	○	○	○	○	≡	○	○	○	○	○	○	▼	≡	≡	○	○	○	○	○	○	○	○	○
		R3	≡	○	○	○	▼	≡	≡	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	6年	R4	≡	○	○	○	▼	≡	≡	≡	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
		R3	≡	○	○	○	≡	≡	○	≡	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
中学生	1年	R4	○	○	○	≡	○	▼	○	▼	≡	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
		R3	○	○	≡	≡	▼	≡	▼	▼	≡	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	2年	R4	○	○	≡	≡	○	≡	○	▼	≡	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
		R3	○	○	○	≡	○	≡	≡	▼	≡	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	3年	R4	○	○	○	≡	○	≡	≡	▼	≡	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
		R3	○	○	○	≡	≡	≡	≡	▼	≡	○	○	▼	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

3 生活・運動習慣等の実態に関する調査

(1) 1日の運動・スポーツ実施時間が1時間未満の児童・生徒の割合（単位：％）

質問内容：運動やスポーツをするときは、1日にどのくらいの時間しますか。（学校の体育の授業をのぞきます。）

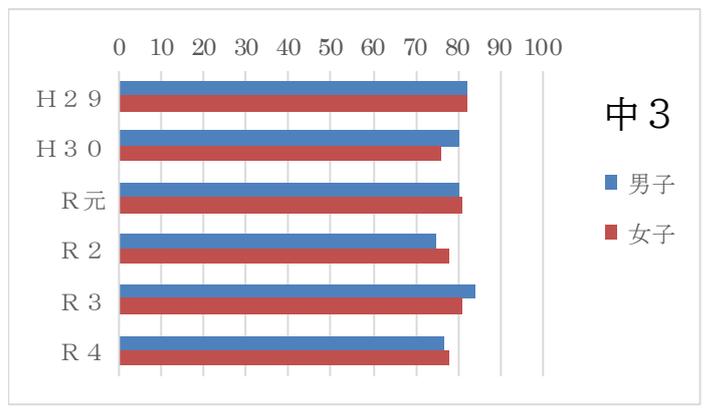
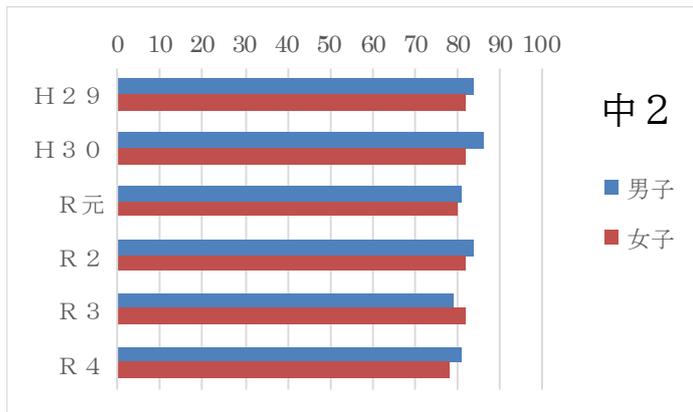
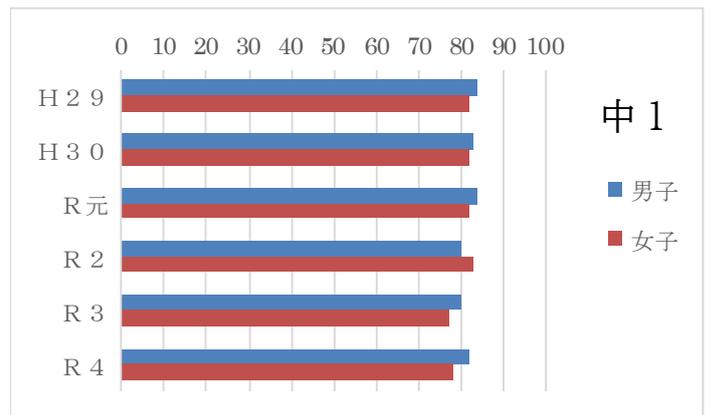
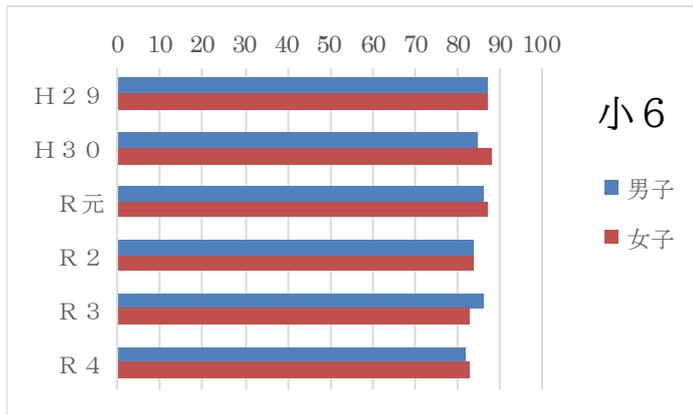
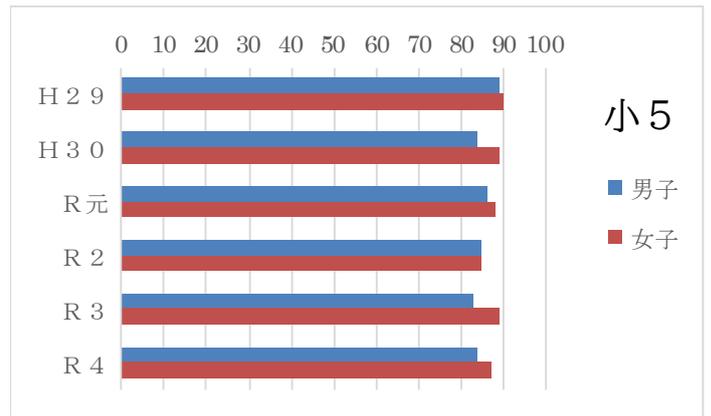
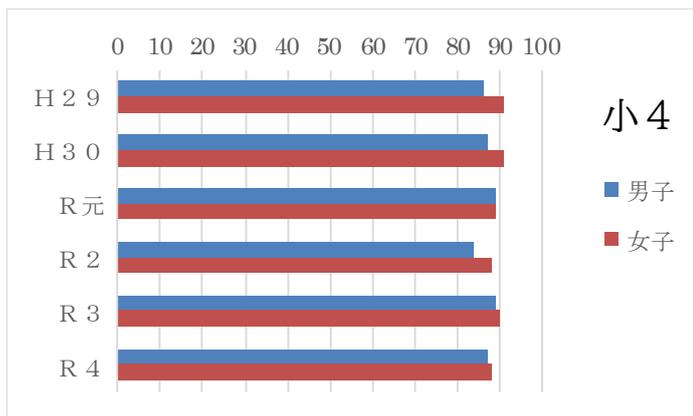
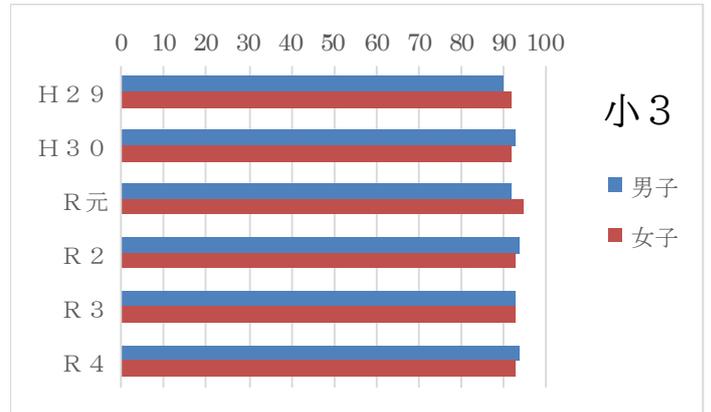
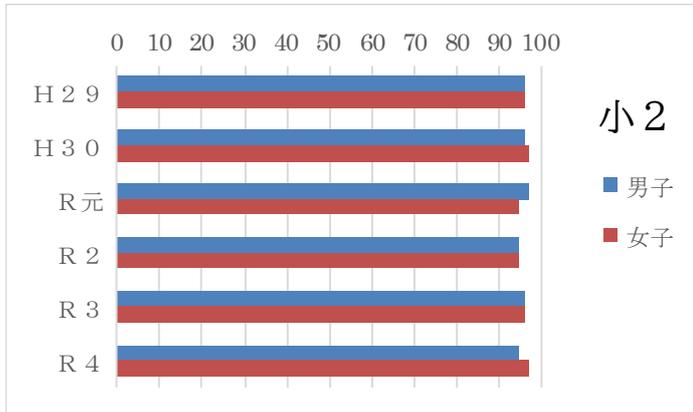
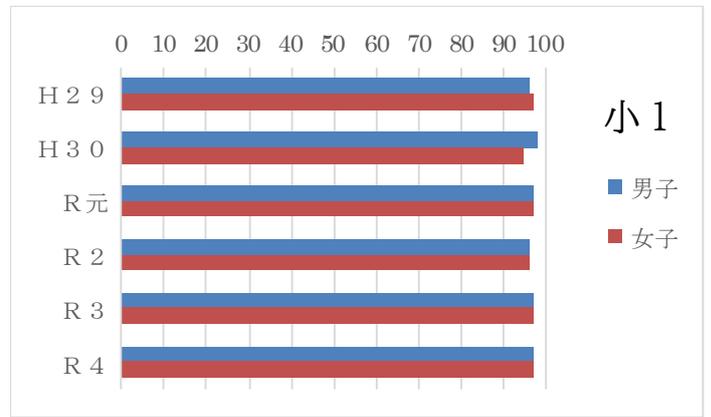
- 1 30分未満
- 2 30分以上1時間未満
- 3 1時間以上2時間未満
- 4 2時間以上



(2) 毎日朝食を食べている割合 (単位：%)

質問内容：朝食は食べますか。

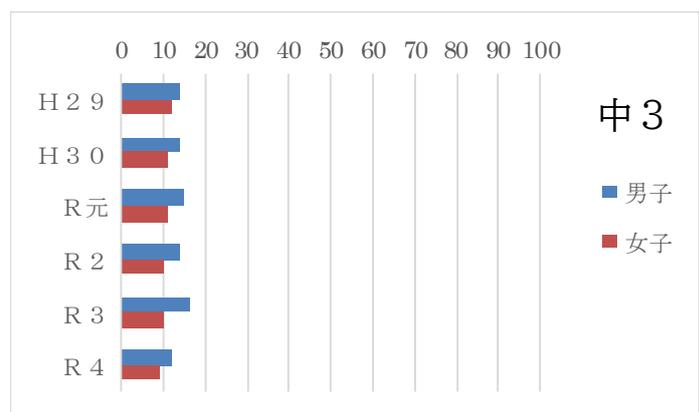
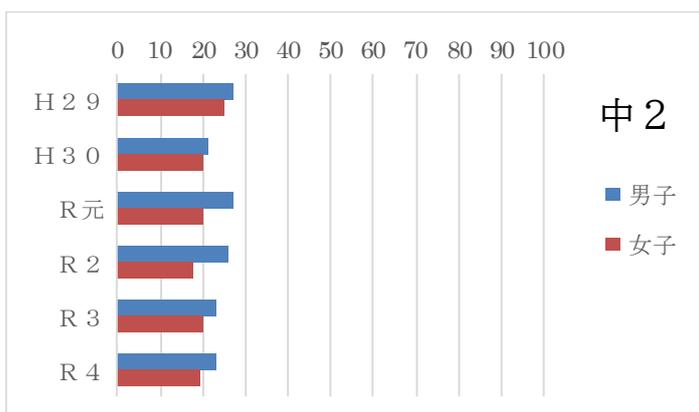
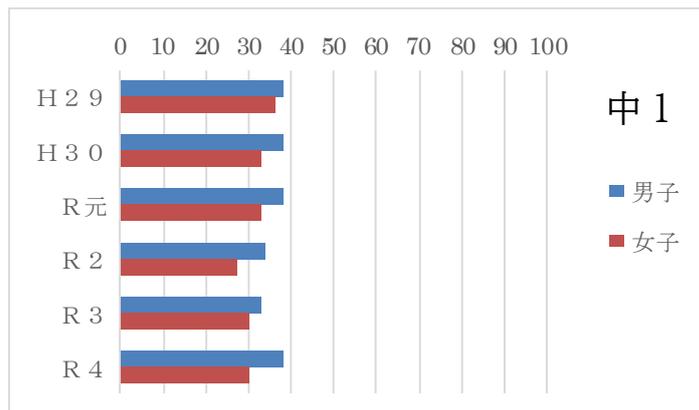
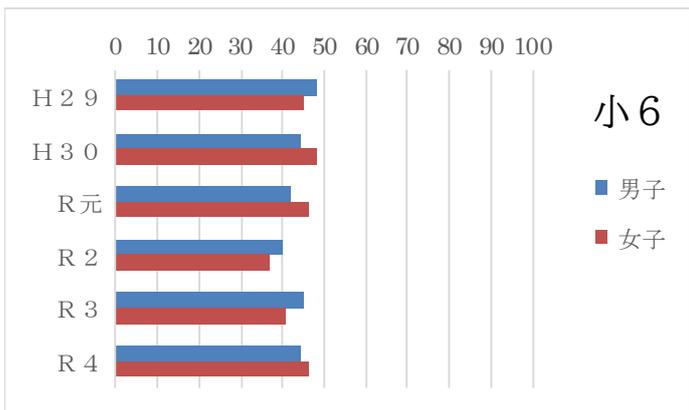
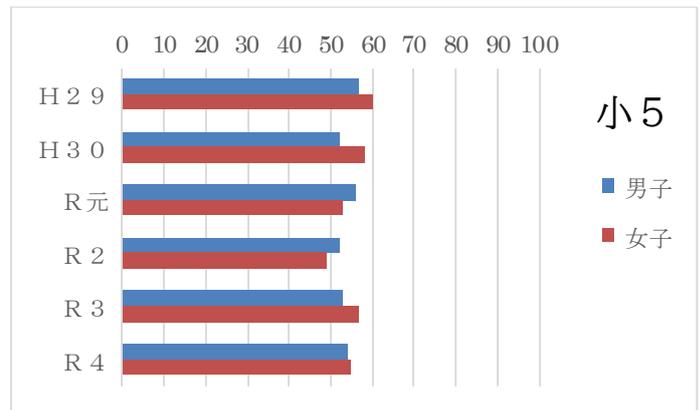
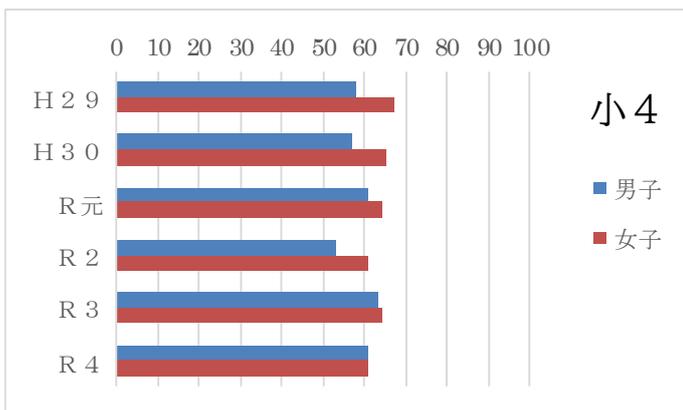
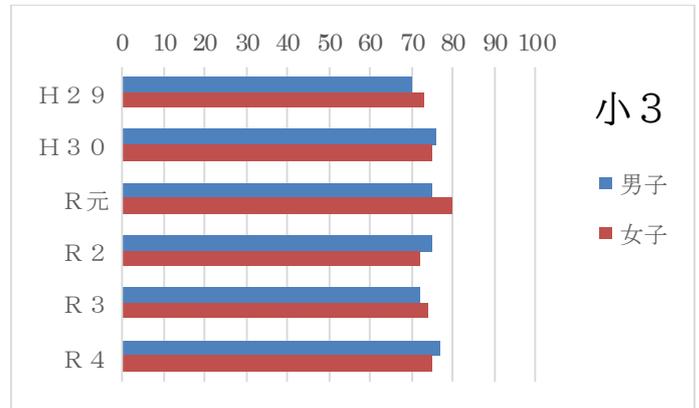
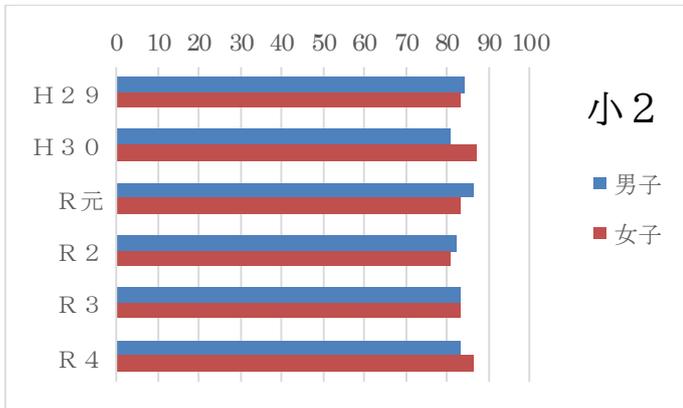
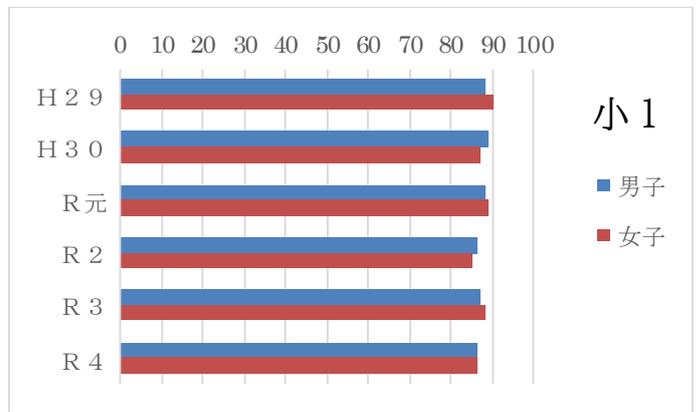
- 1 毎日食べる
- 2 ときどき食べない
- 3 毎日食べない



(3) 睡眠時間8時間以上 (単位：%)

質問内容：1日の睡眠時間(平日)

- 1 6時間未満
- 2 6時間以上8時間未満
- 3 8時間以上



4 結果の考察と今後の方策

(1) 児童・生徒の体力・運動能力の現状

【中野スタンダードの通過率から】(P.2 2 (1))

- 「反復横跳び」「50m走」「持久走」は、男女共に全ての学年で中野スタンダードの通過率が目標値に達している。
- 「上体起こし」「長座体前屈」「立ち幅跳び」は、男女共に目標値に達している学年が多い。
- ▼ 「握力」「ボール投げ」「20mシャトルラン」は、中野スタンダードを通過する学年が少なく、継続課題である。
- ▼ 中野スタンダードの通過率が目標値に達した項目数の割合は、昨年度が61%、今年度が60%と少し下降した。しかし、経年比較で見ると、ここ数年、一定の水準で推移していることが分かる。(2 (1) イのグラフ)

【都平均との比較から】(P.3 2 (2))

- 「上体起こし」は全学年で、「長座体前屈」は、多くの学年が都平均を上回った。
- 握力は、中学校全学年で昨年度同様、都平均を上回った。
- 都平均1%を超えて上回った項目が、64項目から68項目へ上がった。
- ▼ 「握力」は、小学校女子が都平均を下回った。小学校男子についても1年生から4年生までが都平均を下回っている。

(2) 児童・生徒の生活・運動習慣等の状況

【1日の運動・スポーツ実施時間が1時間未満の児童・生徒の割合から】(P.4 3 (1))

【毎日朝食を食べる割合から】(P.5 3 (2))

【睡眠時間8時間以上の割合から】(P.6 3 (3))

- ・どの項目においても変動が見られる学年はあるが、ほとんどの学年の割合が横ばいの状態であるため、新型コロナウイルス感染症拡大以前と比べて大きな変化は見られていないが、さらに分析していく必要がある。

(3) 今後の方策

- ア 各学校は、体力テストの結果を踏まえ、自校の現状を分析し、それを基に授業改善に取り組む。また、体育の授業だけでなく、各児童・生徒が自らの課題を把握し、日常生活でもすすんで運動することができるように働きかける。各学校の体力向上の取組は、学校便りやホームページ等により、保護者・地域にすすんで紹介するよう呼びかけていく。
- イ 保幼小中連携の視点から、就学前教育・保育施設に対しても、本結果を提供し、各園において幼児の体力向上に関わる課題を把握し、改善に努める。また、「運動遊び事例集」などを活用した取組を推進し、家庭とも連携を図りながら就学前の幼児期における身体を動かす体験が充実するよう働きかけていく。
- ウ 「小学校スキルアップ研修(体育)」では、各学校の授業改善に資するため、教科担任制で体育を担当する教員を対象に専門性向上の研修を行う。
- エ 新型コロナウイルス感染症拡大の状況下における健康・体力の向上を図るため、抽出校において、1日の運動・スポーツ実施時間や生活習慣の変化と体力との関係性について調査していく必要がある。

5 各学校の体力向上プログラム改訂に向けて

(1) 各校の児童・生徒の実態に応じた目標設定

- 中野スタンダードを基にした学年別、男女別、種目別の現状と課題を分析し、各校の児童・生徒の実態に応じた到達目標を設定し、具体的に明記する。

(2) 運動の日常化のための取組や環境の整備

- 年3回の体力向上月間における取組内容の工夫や、休み時間に体を動かして遊ぶ機会を意図的に提供するなど、運動の日常化を図る取組を工夫する。
- 幼児・児童・生徒の自発的な運動を誘発する、環境・遊具・設備等を工夫する。

(3) 基本的な生活習慣を確立するための取組

- 体力の向上は、基本的な生活習慣と密接な関係がある。「食事」「運動」「休養及び睡眠」の調和のとれた生活の必要性について、幼児・児童・生徒の発達段階に応じた指導を行うとともに保護者への啓発を行う。

(4) 体力テストにおける課題への取組

①握力

- 休み時間等において、固定施設（雲梯、登り棒、鉄棒、ジャングルジム及び肋木等）を使った遊びを積極的に取り入れる。また、体育の授業でサーキットを取り入れる等、固定施設に触れる機会を設ける。高学年では、マット運動のウォーミングアップで、手押し車やかえる倒立などをする中で握力について意識することができる機会を設ける。
- 学校生活の中で、幼児・児童・生徒が、「ほうきを持って掃く」、「雑巾を絞る」、「物を持って運ぶ」などの場面を意図的に取り入れる。（清掃活動等）

②投力

- 学習指導要領解説 体育編では、「児童の実態に応じて投の運動（低学年は投の運動遊び）を加えて指導することができる」と示された。各学校の実態に応じて、この運動を位置付け、遠くに力一杯投げる力の育成を主眼とした学習を展開する。
また、体づくり運動系領域の用具操作(ボール)やボール運動系領域（特にベースボール型のゲームやゴール型のゲーム）において、様々な投げる運動を行う機会を確保する。
- 特に、幼児期や小学校低学年において、紙鉄砲やメンコなど、投げる動作につながる動きをもつ伝承遊びを取り入れる。

③持久力

- 「短縄や長縄を使って跳躍やエアロビクス等の全身運動を続ける。」「無理のない速さで5～6分程度の持久走をすること。」「一定のコースに置かれた固定施設、器械・器具、変化のある地形などを越えながらかけ足で移動するなどの運動を続ける。」等の運動を日頃から取り入れていくことで持久力を高めていく。

6 効果を上げている学校の取組例

学校	具体的な内容
A小学校	朝の時間に「プレイタイム」を設けて、外遊びをしている。主にボール運動や鬼ごっこを行っている。2年生は毎年外部講師を招き、投の運動に関する指導をしてもらっているため、ボールを使った遊びや運動に積極的に取り組む子どもが増えている。
B小学校	授業の始めに体幹を鍛える学校独自の準備運動を行っている。どの教員でも同じ指導ができるように、準備運動の内容を画像付きの文書にまとめ、共有している。統一した準備運動を行うことで授業の流れがスムーズになり、子どもたちの運動時間が確保され、45分の中で力いっぱい運動することができている。
C中学校	授業中、一人1台端末を活用して、積極的に話し合い活動やチームの作戦会議を行っている。また、前時に行ったバスケットボールの様子を教室で見ながら振り返る時間を取ることもある。自らの課題について、生徒同士が励まし合いながら解決する活動を積み重ねることで、運動への意欲が高まり、日常的に体を動かそうとする生徒が増えている。
D中学校	放課後スポーツ教室を週1回実施したり、脚への負担が少ない230mのランニングコースを校庭に設置したりするなど、生徒が運動に取り組みやすい環境づくりに力を入れている。また、運動会直後に子どもたちの運動への興味・関心やモチベーションが高い状態で体力テストを実施している。